

図書室だより vol.155

中央大学高校図書室

☆ **ベストリーディング** ☆

## 2019年4月から2019年12月までの貸出ランキング

1位	『コンビニ人間』	……………	村田沙耶香（文春文庫）
2位	『その白さえ嘘だとしても』	……………	河野裕（新潮文庫）
2位	『月の影 影の海 十二国記』上・下	……………	小野不由美（講談社文庫）
2位	『かがみの孤城』	……………	辻村深月（ポプラ社）
2位	『フーガはユーガ』	……………	伊坂幸太郎（実業之日本社）
2位	『少女は卒業しない』	……………	朝井リョウ（集英社文庫）
2位	『僕は何度でも、きみに初めての恋をする。』	……………	沖田円（スターツ出版文庫）
2位	『君は月夜に光り輝く』	……………	佐野徹夜（角川文庫）
2位	『また、同じ夢を見ていた』	……………	住野よる（双葉文庫）

友達に薦められて、借りていく人も多かったです。何を読んだらいいのかわからない！と思っている人もいるかもしれません。まずは、表紙や背表紙のデザインから手に取ってみてはどうでしょう。眺めるだけでも楽しい本もあります。

## 読書マラソン継続中です！

1年Y君が100ポイント獲得しました。おめでとうございます！

これからもたくさん読んでくださいね！  
ポイントカードは再発行しています。失くした人は申し出て下さい。

## 《3年生のみなさんへ》

**最終貸出日が2/7（金）**になります。その後は図書室内での閲覧のみになりますので、ご注意ください。ご利用はお早めに！

高校時代の読書記録に「**読書通帳**」を作りませんか？3年間で借りた本の書名、借りずに買ったらいくら？などがわかります。希望する人はカウンターまでどうぞ。

## ☆☆ 図書委員からのオススメ ☆☆

『シェイクスピア物語（改版）』 小田島 雄志 著 岩波ジュニア新書

秋の季節を感じられぬまま、寒々しい冬が来てしまった今日この頃、本を読んでいますか？

本日紹介するのはあの子もこの子も知っているシェイクスピアの短編集です。

イギリスの劇作家である彼の作品は『ロミオとジュリエット』など悲劇的な物語が有名ですが、現代のコミックのように最後は勸善懲惡の晴れ晴れしいハッピーエンドで終わるものも多数あります。中でも私のオススメは『ヴェニスの商人』です。商人のアントーニオは金を用立てるためにユダヤ人の金貸しシャイロックの下に行くのですが、この2人はキリスト教とユダヤ教の金利に関する教えの違いから大変仲が悪く、期限までに金を返せなかったらアントーニオの身体から肉を1ポンド貰うという契約をしてしまいます。物語が進むにつれて恋愛や周辺の人間を巻き込んで、徐々にスケールも大きくなっていきます。そして何よりも私が好きなのは作中に出てくる独特のセリフ回しです。

「きっとこんな夜だった。心から愛しているなどと心にもない愛の誓いを散々並べたのは。」

元々舞台用に作られた作品なので宝塚歌劇団のようなセリフ回しになっていますが、逆にこのようなセリフがあることで読者の心を掴みに来ます。

短編集なので1つ1つの物語も20ページほどで構成されています。スナック感覚で偉大な17世紀の文学の味を楽しめます。

3年 男子図書委員



# 図書だより 1月号

## 聖夜の贈り物 百田尚樹

「聖夜の贈り物」は、第1編魔法の万年筆、第2編猫、第3編ケーキ、第4編タクシー、第5編サンタクロースの計五つの物語が書かれている短編集です。いずれもクリスマスに起きる奇蹟のお話で、幻想的なクリスマスの世界で5人の過酷な状況にいた女性たちがそれぞれ、ちょっとした奇蹟を体験します。この五つ五つの奇蹟に心が温まること間違いなし！

短編集で気軽に読めるので、ぜひみなさんも冬の寒さを忘れるような暖かい体験をしてみてください！



## クリスマス・キャロル チャールズ・ディケンズ

主人公のスクルージは強欲でエゴイストでケチで思いやりのない人物として嫌われていました。7年前に亡くなった彼の共同経営者のマーレイの幽霊がクリスマスイブの夜、彼の前に鎖に雁字搦めになった姿で「金銭欲にまみれた人間にどんな悲惨な運命が待っているか」ということを教えるのです。そして彼の生き方を変えるため、三人の幽霊が姿を現すということを行い残していきます。その三人の幽霊に見せられる光景に心を揺さぶられ、疲れ切った彼は一人の幽霊が見せた最後の場面に衝撃を受け、改心をします。この物語は、何度も映画化され、ディズニーもアニメ映画を手がけています。ドナルドダックの伯父として登場する、スクルージおじさんは、この映画から登場したキャラクターです。また、この本がきっかけでクリスマスを豪勢に祝う風習が始まったとも言われています。

とてもシンプルで分かりやすいストーリーなので、読みやすい本です、ものすごく感動的な話なので、是非読んでみてください。



## マスカレード・ホテル 東野圭吾

都内で起きた不可解な連続殺人事件容疑者もターゲットも不明。残された暗号から判明したのは次の犯行現場が一流ホテル・コルテシア東京ということのみ。若き刑事、新田浩介はホテルマンに化けて潜入捜査につくことを命じられる。彼を教育するのは女性フロントクラーク、山岸尚美。次から次へと怪しげな客たちが訪れる中2人は真相に辿り着けるのか？！

日本を代表するミステリー作家、東野圭吾による本格的ミステリー。真犯人は誰なのか…最後までハラハラドキドキが止まらない！



## 四季 冬 森博嗣

この本は森博嗣の「四季」シリーズ最後の作品で、真賀田四季という一人の天才を中心に、その周囲の心情や行動を鮮やかに描いたミステリーです。他のシリーズに出てくる登場人物も描かれているので、様々な角度から楽しめると思います。

「四季」に出てくる人物たちは天才ばかりで、対象になるものは違うけれど、それぞれが「何か」に悩み戸惑いを感じています。その「何か」はとても身近なものが多く、登場人物に親しみを感じられると思います。機会があったら是非読んでみてください！



### 編集後記

クリスマス楽しかったですか？私はまあ察してください…。2年YS  
今年もクリぼっちでしたが別になんとも思わないです。2年YC